

各分野の一般競争制度に代わる事業者選定の在り方  
～結果満足につながる、コストと品質の評価方法とは?～

## 価値の最大化をねらって・・・総合評価競争入札

小松 正樹 清水建設(株) 執行役員 医療福祉本部長

### はじめに

#### (請負と入札の歴史)

棟梁の時代から請負業は始まったといわれます。明治維新、戦後、日米構造協議と続く時代の節目に公共工事入札の制度が改革されています。現代においては、その品質の確保も大きな課題となっています。少ないお金でより良いものを提供する総合評価競争入札に至る歴史について、簡単に振り返ってみます。

#### (海外入札の現状)

欧米諸国は、日本よりも一足先に公共調達に関連の法整備、改革が進められてきました。日本の手本とされているアメリカの仕組みやイギリスの民間活力を活用する公共調達の仕組みを簡単に振り返ってみます。

### ■総合評価落札方式 (PFI の事例も含めて)

総合評価落札方式は民間企業の持つ設計・施工の技術力を活用することで、公共工事の総合的な価値を高める入札方式です。「価格」のほかに「価格以外の要素 (技術力)」を評価の対象に加えて、品質や施工方法を総合的に評価し、技術価格の両面から最も優れた案が採用されます。この方式では、工期や安全性や環境対策など従来は価格に反映しにくかった技術力が評価されるようになってきています。

また、1999 年の「PFI 法」施行は、わが国の公共事業のあり方を変えました。民間の資金、経営能力、技術力を活用し公共事業のコストの削減をはかりつつ、より質の高い公共サービスを目指すものとして導入されました。その評価方法の考え方の種類や特色を病院の事例も含めて紹介いたします。

さらに、設計・施工総合評価方式 (デザインビルド方式) においては、設計者と施工者が一つのチームを組み、計画段階から竣工後のランニングコストを含めた生涯コストで総合的な評価を得られます。価値の最大化の切り札としてのデザインビルド方式のメリットとデメリットを検証してみます。公共工事のみならず、民間工事における発注の参考にもなると考えています。